

第1章

都市の現況と課題



USUKI CITY
Master Plan Concerning City Planning

1 臼杵市の現況

(1) 位置・地形

- 本市は、大分県の東南部に位置しており、市域面積は291.20km²です。
- 北西部に標高400～500mの縦木山、九六位山系、西南部に500～600mの石峠山、楯ヶ城山、冠岳、姫岳、鎮南山等の山々が連なり、これらの山系を分水嶺として大分市、津久見市等と接しています。
- 市域北部を流れる臼杵川、末広川等が臼杵湾へと注ぎ、南部を流れる野津川が西に向かって大分市内の大野川へと注いでいます。

■ 本市の位置

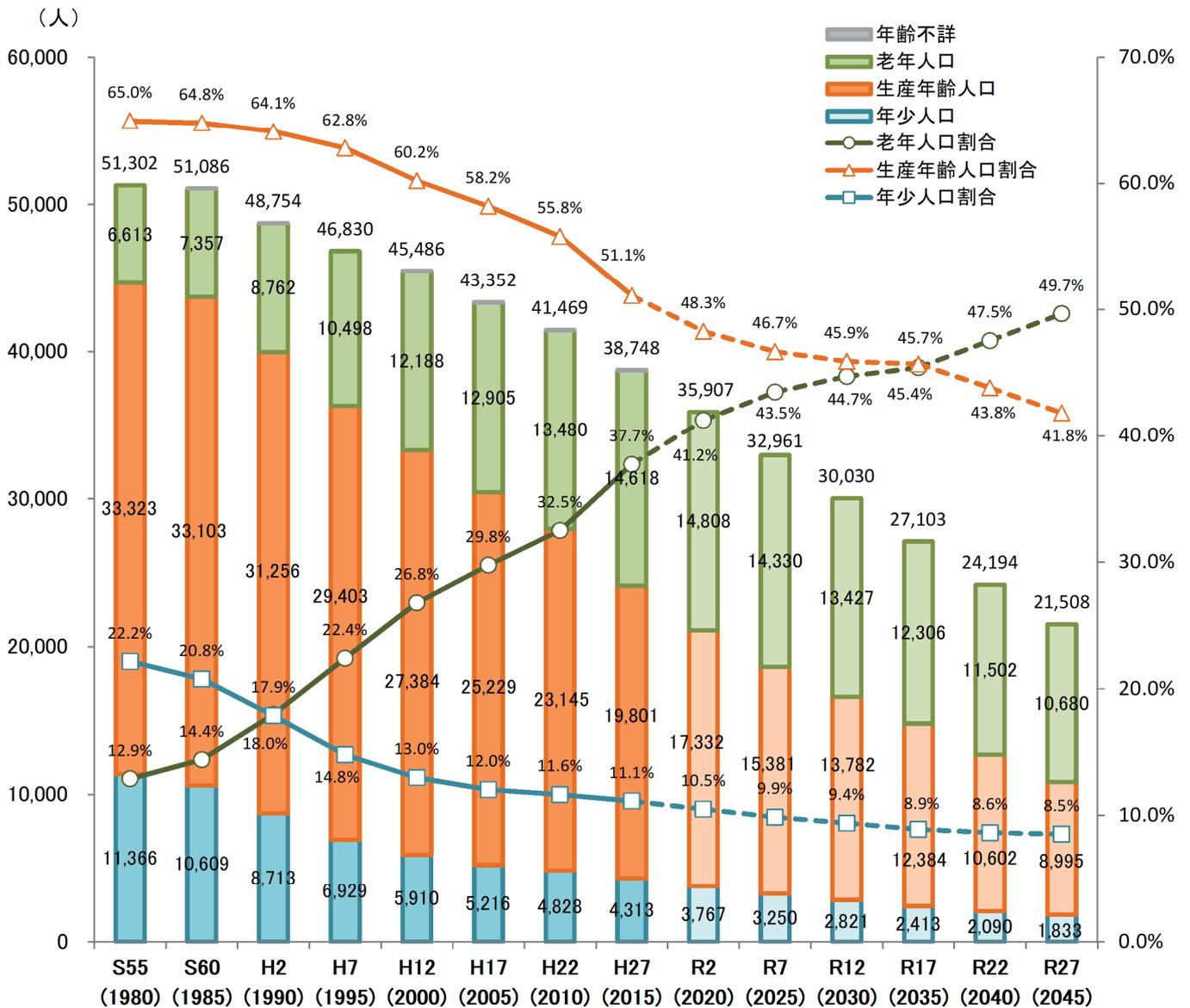


資料：国交省 国土数値情報

(2) 人口

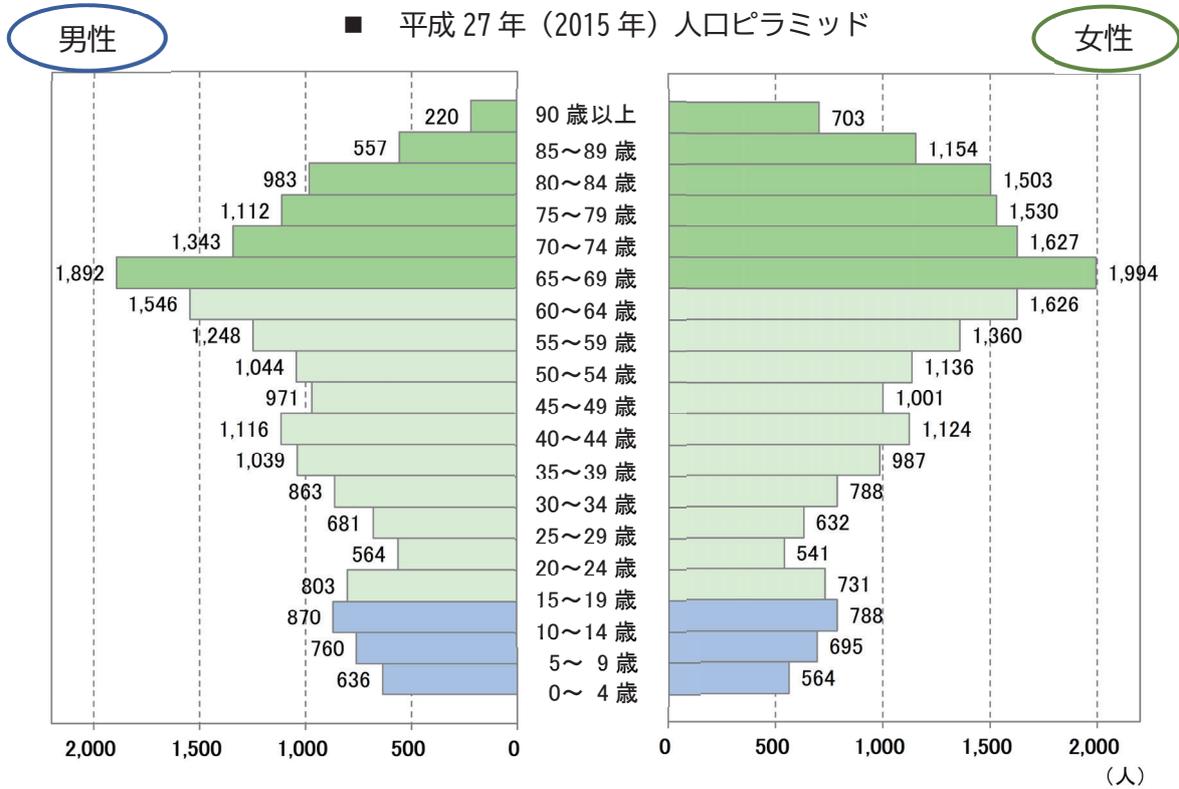
- 本市の人口は、平成27年（2015年）に38,748人となり、昭和55年（1980年）と比較すると12,554人減少しています。
- 高齢化率（老年人口割合）は平成27年（2015年）に37.7%であり、昭和55年（1980年）から24.8%と増加しています。
- 少子化率（年少人口割合）は平成27年（2015年）に11.1%であり、昭和55年（1980年）から11.1%と減少しています。
- 今後も人口減少及び少子高齢化が顕著に進行することが予測されています。

■ 総人口の推移

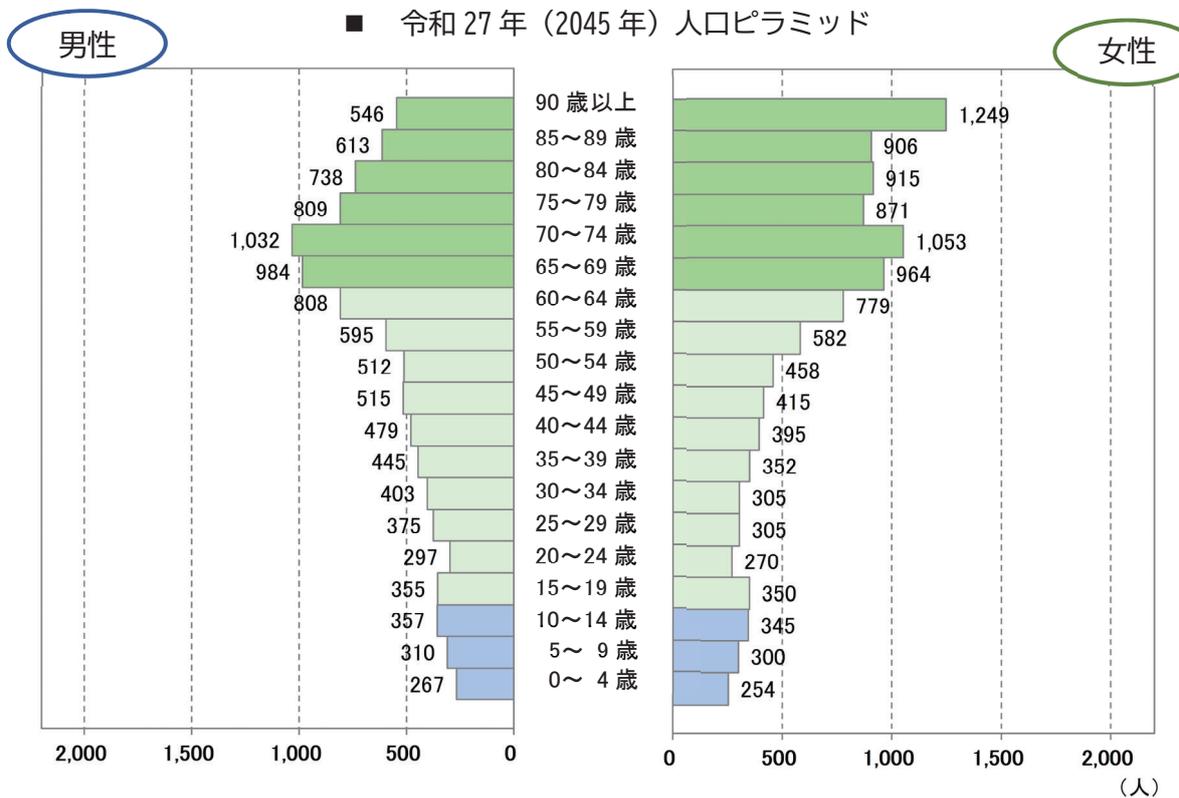


資料：総務省 国勢調査（平成27年以前）、国立社会保障・人口問題研究所（令和2年以降）

- 平成27年（2015年）の人口ピラミッドは60～69歳が男女ともに最も多くなっています。令和27年（2045年）においては各年齢のほとんどで人口は減少しておりますが、65歳以上の人口については平成27年（2015年）と同様に多くなっており、少子高齢化が顕著に進行すると予測されます。



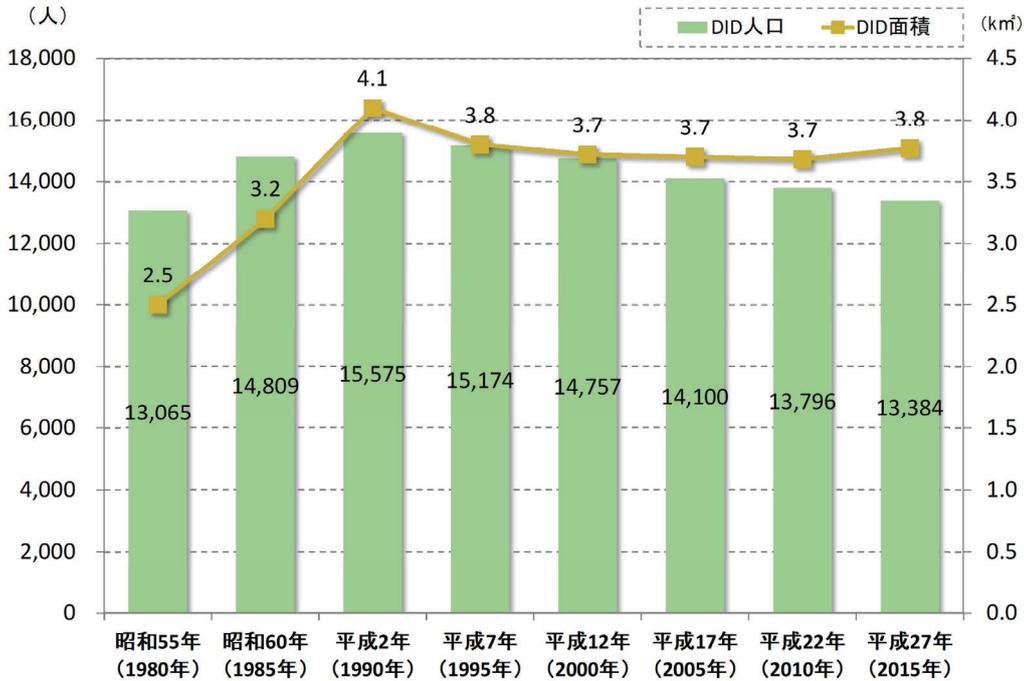
30年後



資料：総務省 国勢調査（平成27年）、国交省 国立社会保障・人口問題研究所（令和27年）

- DID（人口集中地区）人口は、平成2年（1990年）から平成27年（2015年）にかけて減少傾向となっています。また、DID面積は昭和55年（1980年）から平成2年（1990年）にかけて増加し、平成2年（1990年）以降は一定の推移を示しています。

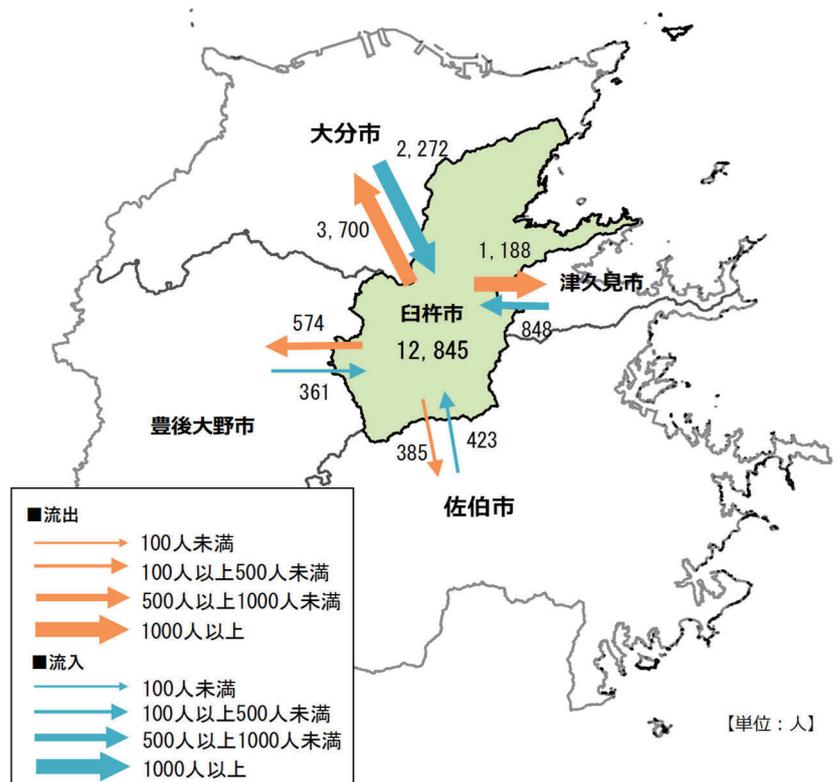
■ DID(人口集中地区)の推移



資料：都市計画基礎調査【平成30年（2018年）】

- 通勤・通学の人口流動は、臼杵市から大分市へ 3,700 人（全体の 61.4%）、津久見市へ 1,188 人（全体の 19.7%）が主な流動となっています。また、臼杵市への流動は大分市から 2,272 人（全体の 56.0%）、津久見市から 848 人（全体の 20.9%）が主な流動となっています。

■ 通勤・通学の人口流動

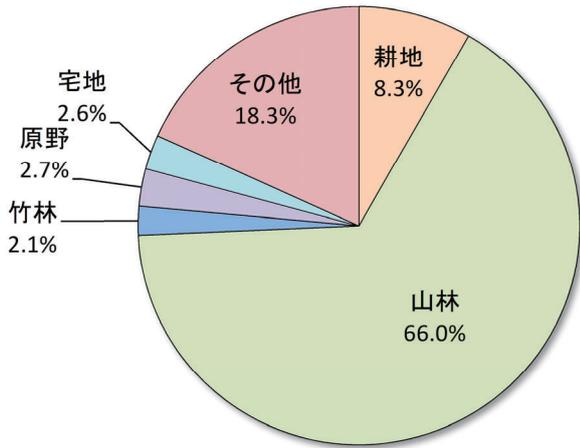


資料：総務省 国勢調査【平成27年（2015年）】、国土省 国土数値情報

(3) 土地利用

- 主に市街地や農地は河川を中心に広がっていますが、宅地は市域全体の2%程度であり、土地利用の大部分は山林等の自然的土地利用が占めています。
- 空き家率は、平成10年（1998年）の9.9%から平成30年（2018年）の18.3%と増加しています。
- 土地区画整理事業は8つの地区で行われ、事業が完了しています。

■ 地目別面積の構成



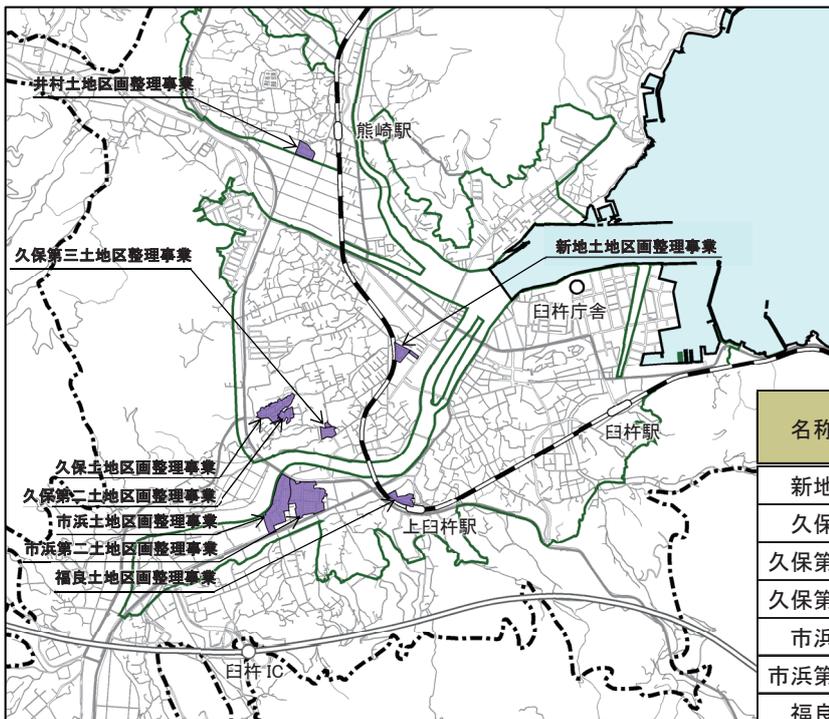
資料：平成31年・令和元年度版 大分統計年鑑

■ 空き家の推移



資料：総務省 住宅・土地統計調査

■ 土地区画整理事業の概要



凡例	
■	土地区画整理事業位置
	高速道路
	鉄道
	都市計画区域
	用途地域

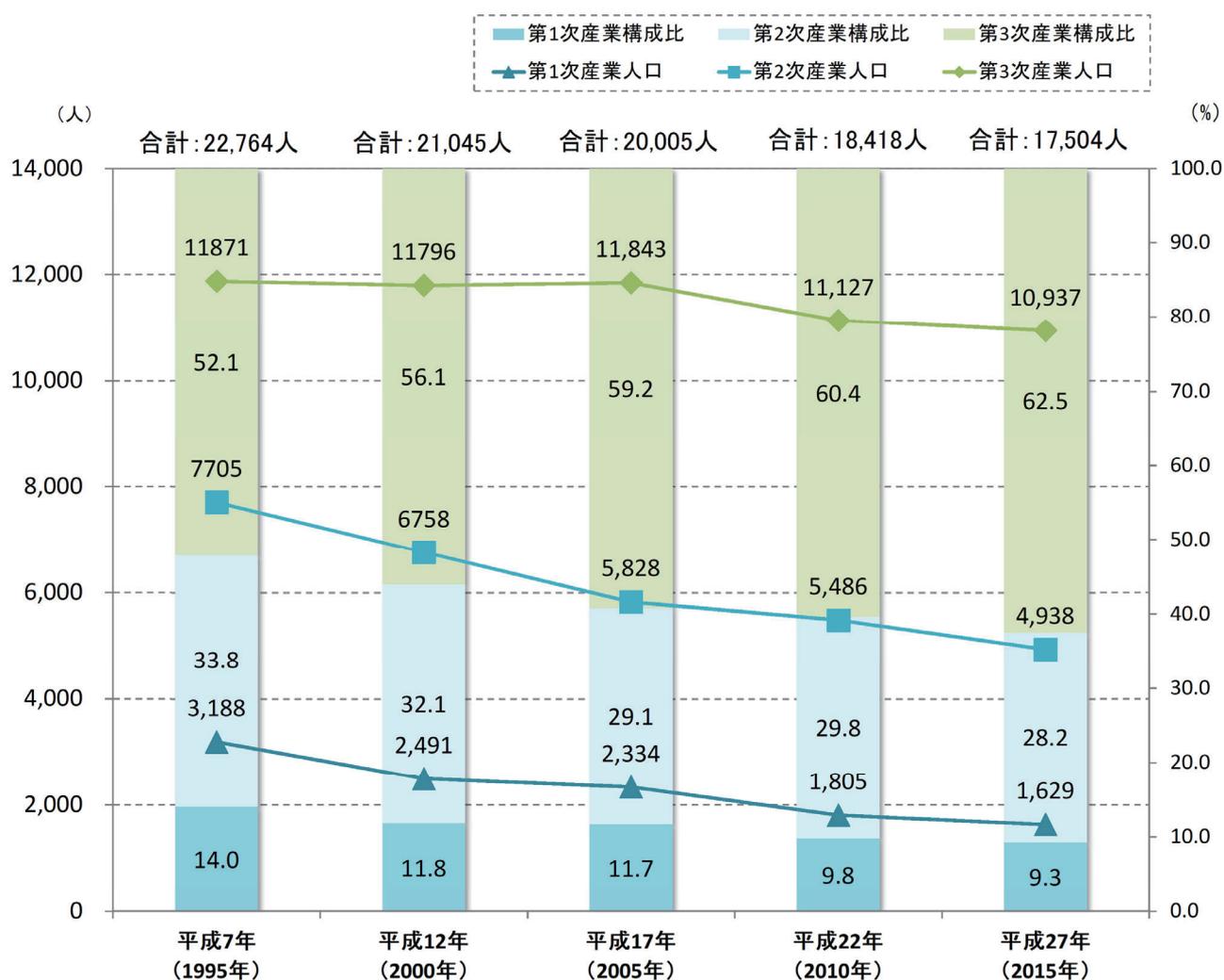
名称	施行主体	施行面積(ha)	事業年度	摘要
新地	共同	0.9	S55～S56	完了
久保	組合	2.0	S59～S62	完了
久保第二	共同	0.7	H9～H10	完了
久保第三	個人	0.7	R1～R2	完了
市浜	組合	3.8	H3～H4	完了
市浜第二	組合	4.4	H11～H13	完了
福良	組合	1.0	H15～H17	完了
井村	共同	0.9	H20～H21	完了

資料：大分県の都市計画 資料編（令和2年3月）、国交省 国土数値情報

(4) 産業

- 平成27年(2015年)の産業就業者人口は17,504人となっており、平成7年(1995年)と比較すると5,260人減少しています。第1次産業と第2次産業の産業就業者人口が大きく減少傾向にあるため、第3次産業の割合が多くなっています。

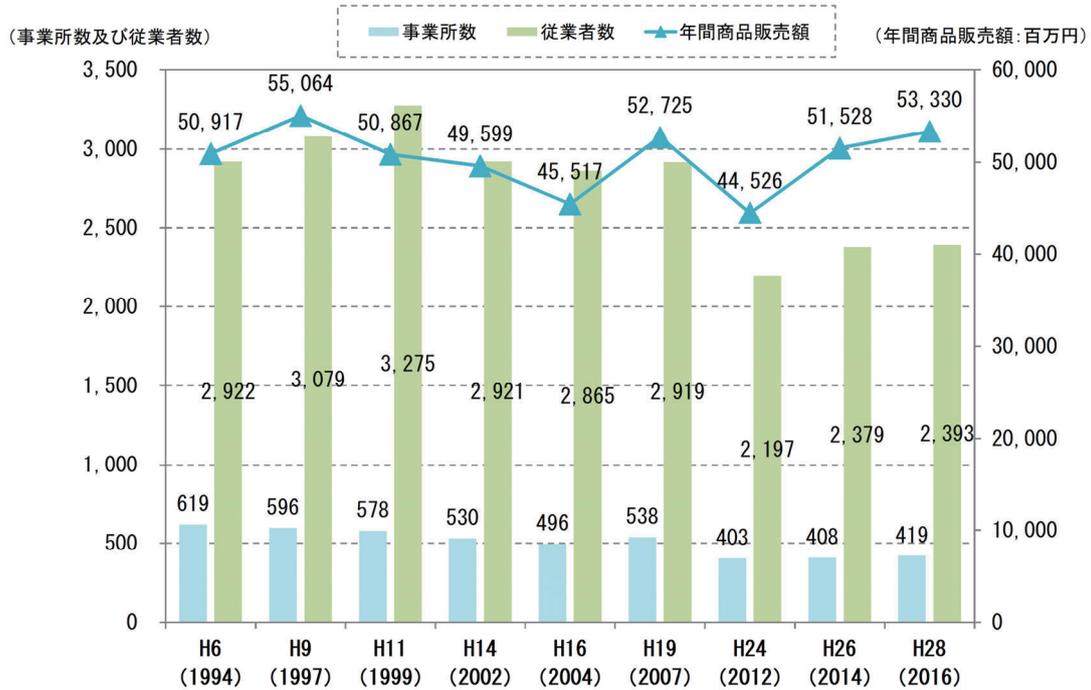
■ 産業就業者人口の推移



資料：総務省 国勢調査

- 商業は、平成6年（1994年）から平成28年（2016年）にかけて事業所数・従業者数が減少しており、年間商品販売額は平成24年（2012年）以降増加しています。
- 工業は、平成20年（2008年）から令和元年（2019年）にかけて事業所数・従業者数が減少しており、製造品出荷額は平成29年（2017年）以降において増加しています。

■ 商業：事業所・従業者数及び年間商品販売額の推移



資料：経済産業省 商業統計調査

■ 工業：事業所・従業者数及び製造品出荷額の推移

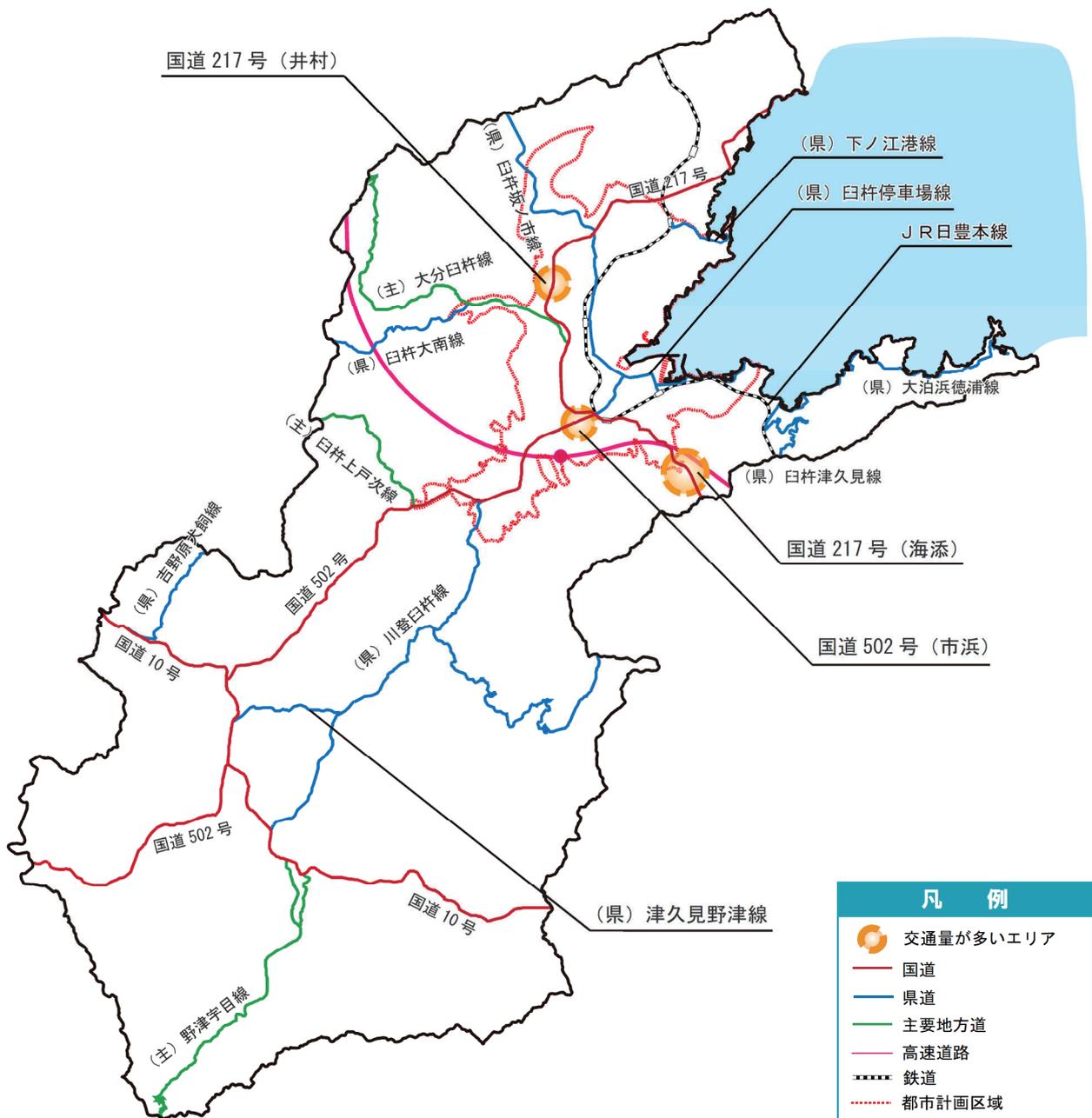


資料：経済産業省 工業統計調査

(5) 交通

- 本市の主要な道路は、臼杵市東部を海岸線に沿って通る国道217号、市域のほぼ中央部を東西方向に通る国道502号、市域南部を東西方向に通る国道10号等があり、これらを補完する形で県道や市道が通っています。
- 「平成27年度 全国道路・街路交通情勢調査」によると、本市と周辺都市を結んでいる国道502号と国道217号は交通量が多く、国道502号（市浜）12,531/24h、国道217号（海添）11,504/12hとなっています。また、混雑度は国道217号（井村）で1.83、国道217号（海添）で1.19となっており交通量が多い状況がみられます。

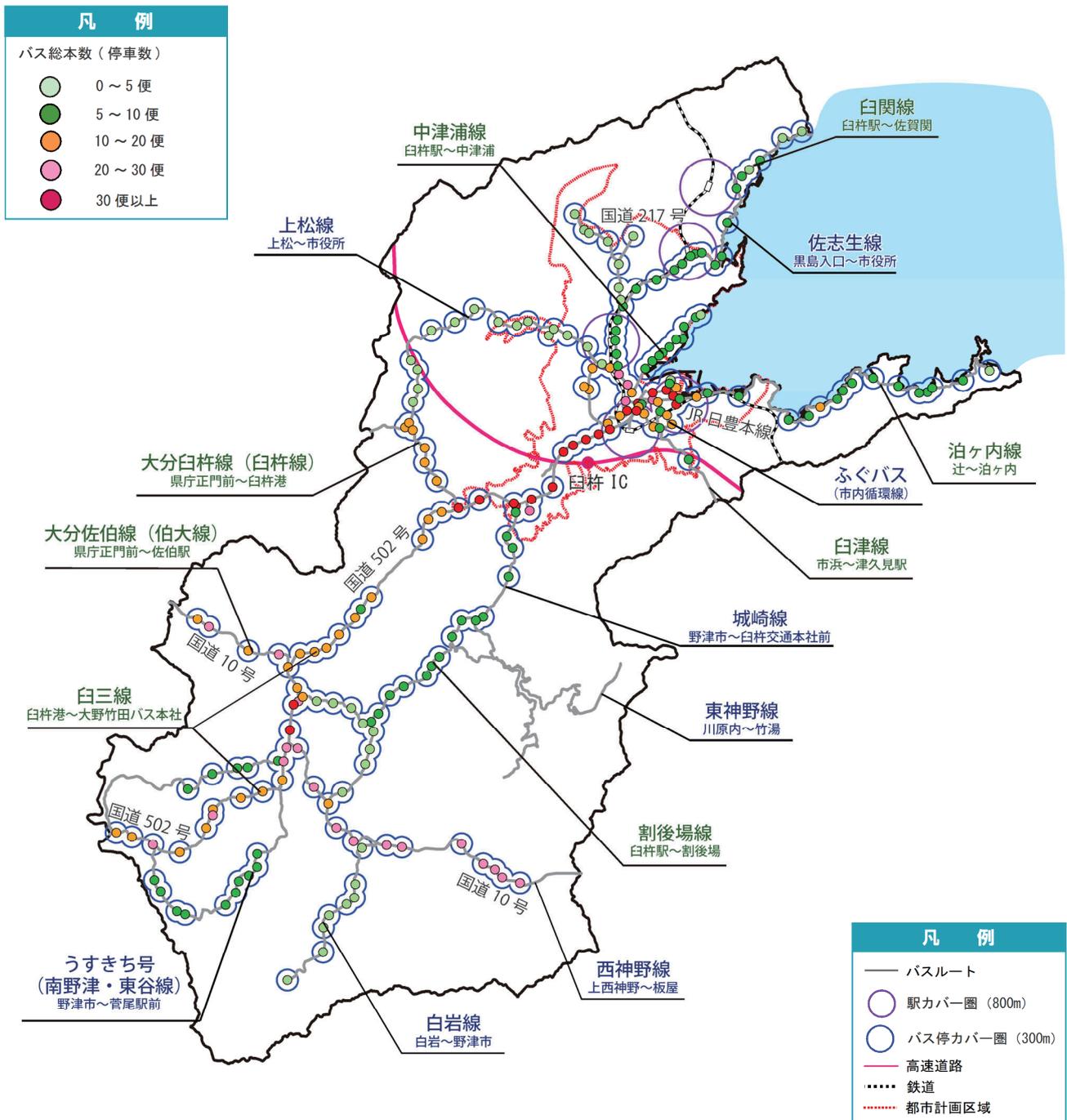
■ 交通網



資料：平成27年度 全国道路・街路交通情勢調査、国土省 国土数値情報

- 本市は鉄道駅が5駅あり、1時間に1本程度運行している特急列車の停車駅はJR臼杵駅のみとなっています。
- バスの運行本数は、JR臼杵駅から国道502号を通過して野津市方面を結ぶバス停で、1日30本以上の運行されており、交通利便性が高いです。臼杵市街地周辺部では、概ね10本以上の運行頻度となっていますが、用途地域北側や一部の地域は、10本以下の運行頻度となっています。

■ 臼杵市の公共交通網（緑字：路線バス、青字：コミュニティバス）



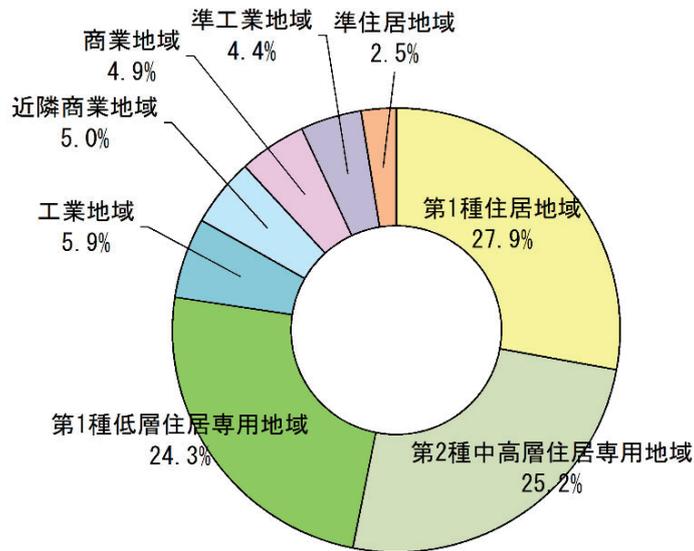
資料：国土省 国土数値情報

(6) 都市計画決定状況及び都市計画施設の整備状況

① 都市計画区域・用途地域

- 本市の都市計画区域は4,822haが指定されており、行政区域の約17%を占めます。また、用途地域は1,109haが指定されており、都市計画区域の約23%を占めます。
- 用途地域の内訳は、第1種住居地域、第2種中高層住居専用地域等の住居系用途地域が多く、用途地域全体の約80%を占めています。なお、下北地区（藤河内）・下ノ江地区（田井）の第1種低層住居専用地域は、大分市の新産業都市建設に伴う宅地開発を想定して指定されたものですが、現況の土地利用では山地・農地となっており、開発等の目処は立っていません。
- 商業系の用途地域は中心市街地と幹線道路沿道を中心に指定されており、工業系の用途地域は臼杵港や臼杵川南部等に指定されています。

■ 用途地域指定状況



区分	面積 (ha)	構成比
用途地域	1,109.0	100%
第1種低層住居専用地域	269.0	24.3%
第2種低層住居専用地域	—	—
第1種中高層住居専用地域	—	—
第2種中高層住居専用地域	280.0	25.2%
第1種住居地域	309.0	27.9%
第2種住居地域	—	—
準住居地域	28.0	2.5%
田園住居地域	—	—
住居系用途地域合計	886.0	79.9%
近隣商業地域	55.0	5.0%
商業地域	54.0	4.9%
商業系用途地域合計	109.0	9.8%
準工業地域	49.0	4.4%
工業地域	65.0	5.9%
工業専用地域	—	—
工業系用途地域合計	114.0	10.3%

資料：大分県の都市計画 資料編 【令和2年（2020年3月）】

② 都市計画道路

- 本市は、幹線道路 11 路線と特殊街路 9 路線が都市計画決定されています。これら路線の大半は末広川以南の用途地域を中心に指定されています。
- 幹線道路のうち、臼杵駅前末広線、祇園洲辻線、柳原大坪線、市浜千代田線の 4 路線は全区間整備済となっていますが、市浜戸室線のように、全区間にわたって未整備（現道無し）という路線も残されています。
- 幹線街路の改良率は 57.0%であり、大分県平均 62.8%を下回っています。

■ 都市計画道路整備状況

区分	名称	計画車線の数	計画幅員(m)	計画決定延長(m)	改良済延長(m)	概成済延長(m)	改良率
幹線街路	臼杵駅前末広線	2	16	2,910	2,910		100.0%
	祇園洲辻線		16	230	230		100.0%
	豊屋板知屋線		12	1,980		880	
	祇園洲竹場線	4	25	5,550	3,580	1,330	64.5%
	万里橋津留線		12	2,550	356	1,764	14.0%
	柳原大坪線		14	3,860	3,860		100.0%
	上臼杵土橋線		12	210			
	祇園洲柳原線	2	12	1,440	1,394		96.8%
	市浜戸室線		16	1,400			
	市浜千代田線	2	17	270	270		100.0%
野田戸室線	2	16	1,700		1,050		
計				22,100	12,600		57.0%
特殊街路	大手門筋線		13	270	270		100.0%
	海添本丁通り線		10	120			
	辻広場平清水通り線		5	560	392		70.0%
	二王座台西通り線		3	180			
	二王座台中通り線		3	150			
	二王座台東通り線		3	200	200		100.0%
	二王座新道線		3	270			
	蛤小路線		3	280	264		94.3%
	山下通り線		3	150			
計				2,180	1,126		51.7%

資料：大分県の都市計画 資料編 【令和2年（2020年3月）】

③ 都市計画公園

- 本市は、街区公園 3 箇所、総合公園 3 箇所、緑地 1 箇所が都市計画決定されています。
- 総合公園のうち、臼杵公園、臼杵石仏公園は観光拠点、そして臼杵市総合公園はスポーツ・レクリエーションの拠点としての機能を担っており、臼杵公園は市街地に位置し、市民が日常的に利用できる身近な公園ともなっています。
- 都市計画公園（緑地含まず）の整備率は 83.3%であり、大分県平均 60.6%を大きく上回っています。なお、都市計画区域内人口 1 人当たりの公園面積は 9.4 m²程度であり、県内の他の都市計画区域と比較して低い整備水準となっています。

■ 都市計画公園整備状況

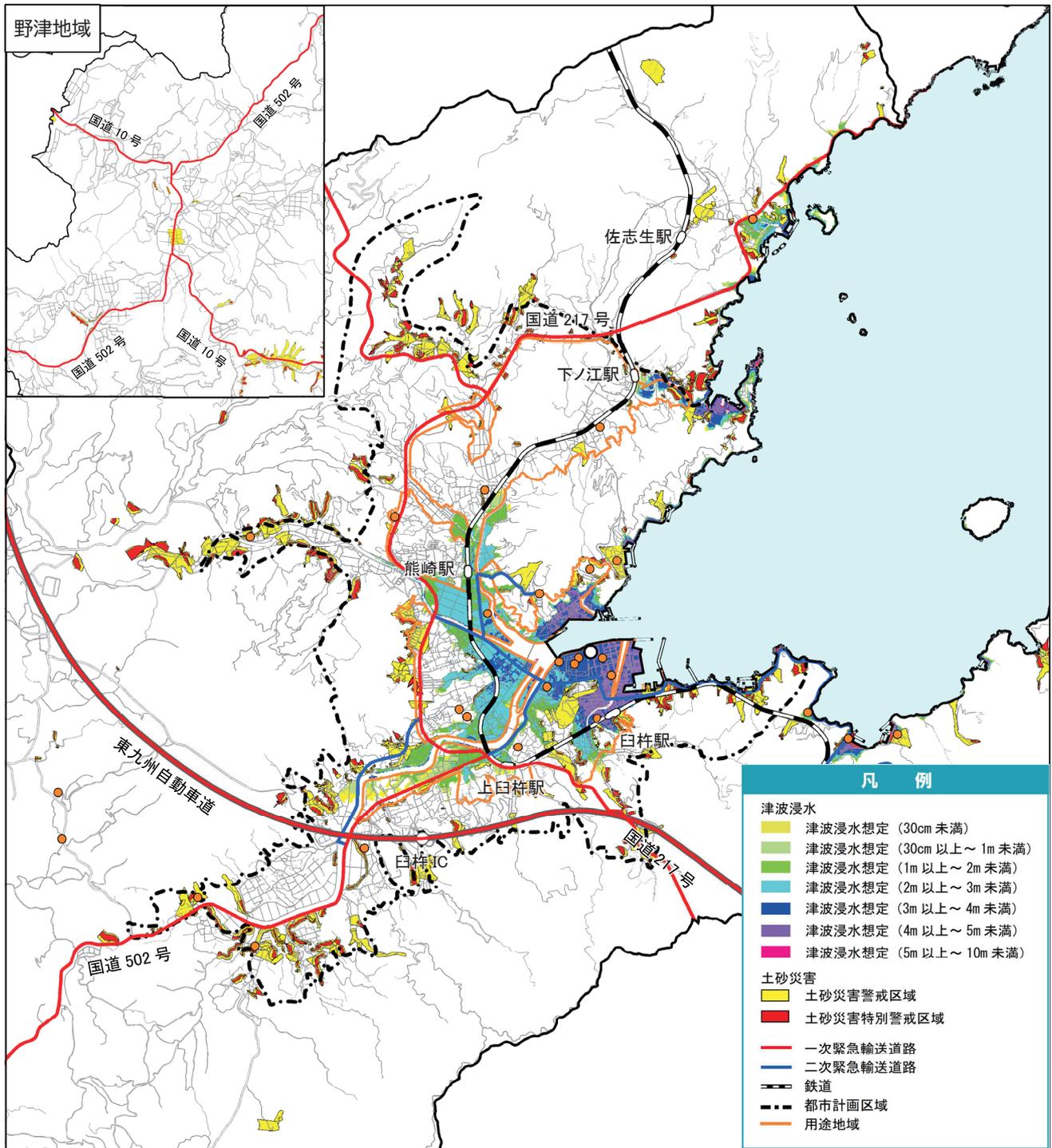
区分	名称	計画 (ha)	供用 (ha)	整備率	当初決定
街区公園		0.56	0.28	50.0%	
	仲よし子供公園	0.14	0.14	100.0%	S28.10.12
	福良ヶ丘児童公園	0.28			S34.3.17
	市浜川添公園	0.14	0.14	100.0%	S34.3.17
近隣公園					
地区公園					
総合公園		29.80	25.00	83.9%	
	臼杵公園	5.30	5.30	100.0%	S25.3.31
	臼杵石仏公園	5.40	1.80	33.3%	S49.1.29
	臼杵市総合公園	19.10	17.90	93.7%	S52.7.15
運動公園					
特殊公園					
広域公園					
公園計		30.36	25.28	83.3%	
緑地	下北緑地	1.50			H10.4.6

資料：大分県の都市計画 資料編 【令和2年（2020年3月）】

(7) 防災

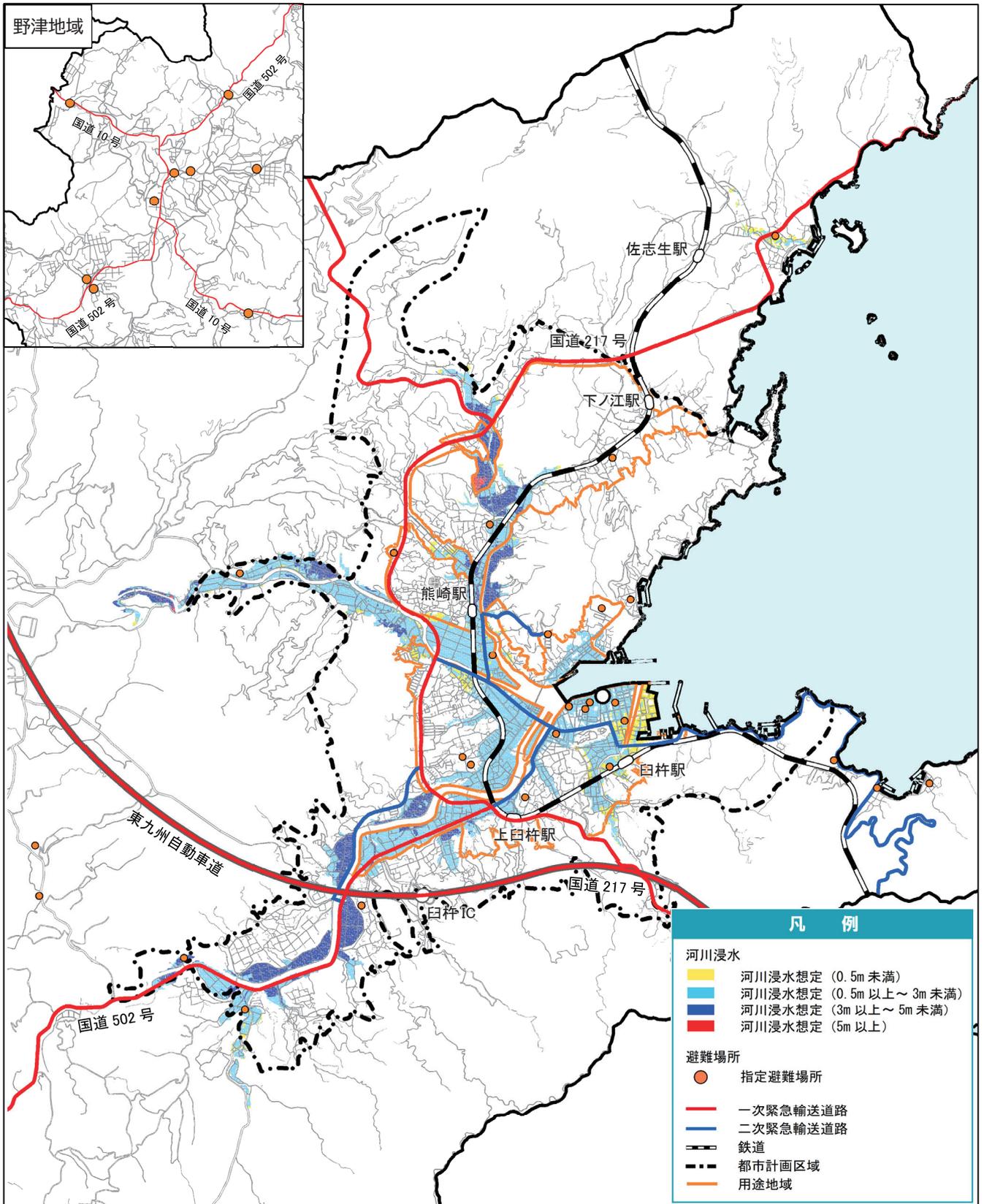
- 都市計画区域内の臼杵市街地を中心に、津波浸水や河川浸水が広範囲に想定されています。また、臼杵市街地周辺や山間部においては土砂災害警戒区域等が指定されています。

■ 津波浸水想定・土砂災害指定状況



資料：臼杵市防災マップ、国交省 国土数値情報

■ 河川浸水想定



資料：大分県、国交省 国土数値情報

2 住民意向調査の結果

『都市計画マスタープラン』の見直しにあたり、市民の皆様が日頃感じられていることや、本市のまちづくり等に対する住民意向を把握し、本市の将来像・防災・土地利用・都市施設・景観等の検討に活用させていただくため、住民意向調査を実施しました。

■市民アンケート

調査対象者数	市内 18 歳以上の住民を対象に、住民基本台帳をもとに 2,500 名を無作為抽出
調査方法	配布：郵送により配布 回収：返信用封筒による直接郵送
実施期間	平成 30 年 10 月 31 日発送、平成 30 年 11 月 16 日締切
有効回収率	40.8%＝回収 1,019 通/配布 2,500 通

■中学生アンケート

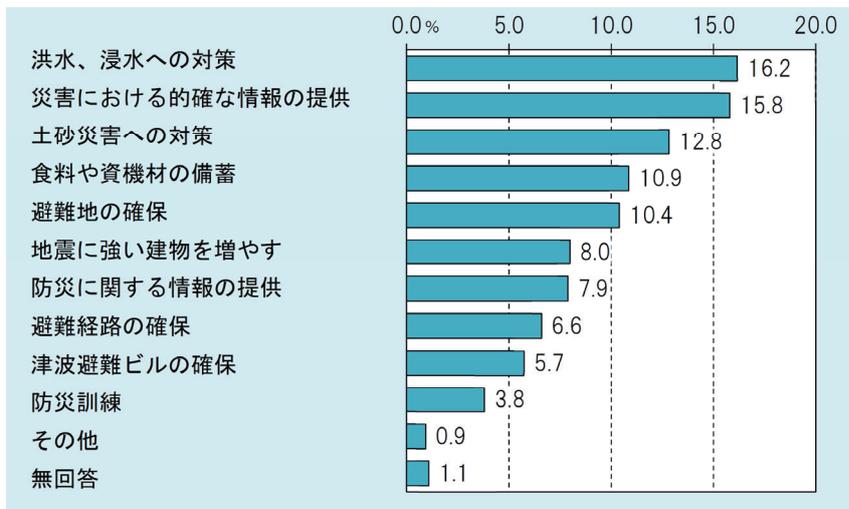
調査対象者数	臼杵市中学生（北中学校、東中学校、南中学校、西中学校、野津中学校）
調査方法	学校別に配布・回収
実施期間	平成 30 年 10 月 19 日より実施
有効回収率	90.2%＝回収 304 通/配布 337 通

(1) 臼杵市のまちづくりにおける将来像について

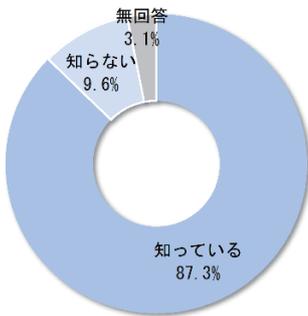
① 災害に強いまちづくりに必要な事項と避難場所・避難経路

- 災害に強いまちづくりに必要な事項は、『洪水、浸水への対策』、『災害における的確な情報の提供』の回答が多くなっています。
- 自宅、通勤・通学先からの避難場所・避難経路は、『決めている』、『知っている』の意見が多くなっています。

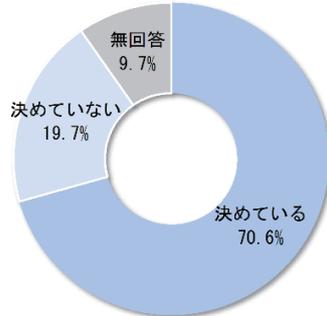
■ 災害に強いまちづくりに必要な事項



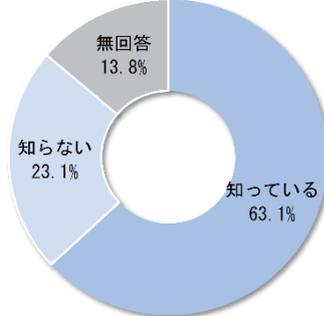
■ 自宅からの避難場所



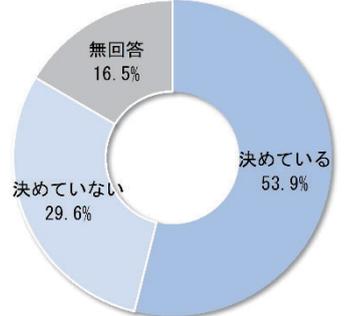
■ 自宅からの避難経路



■ 通勤・通学先からの避難場所



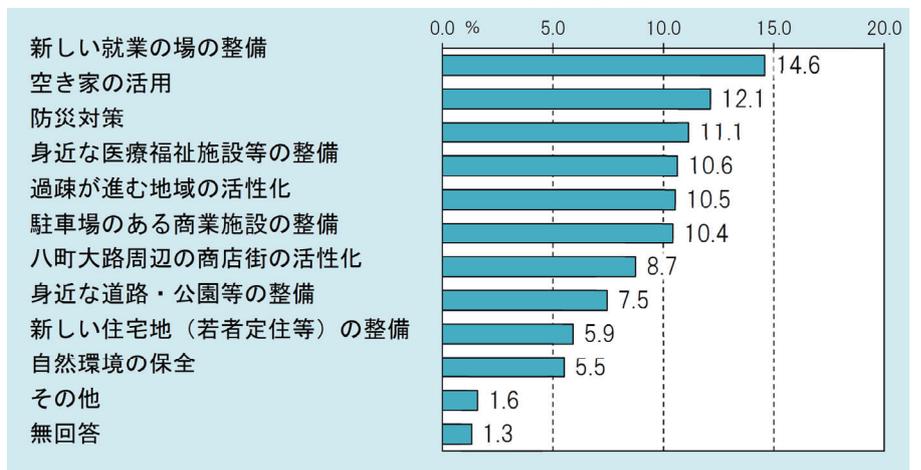
■ 通勤・通学先からの避難経路



② まちづくりで重要な事項

- まちづくりで最も重要な事項は、『新しい就業の場の整備』の回答が最も多くなっています。また、近年増加傾向にある空き家や、自然災害への対応として防災対策等も重要と考えられています。

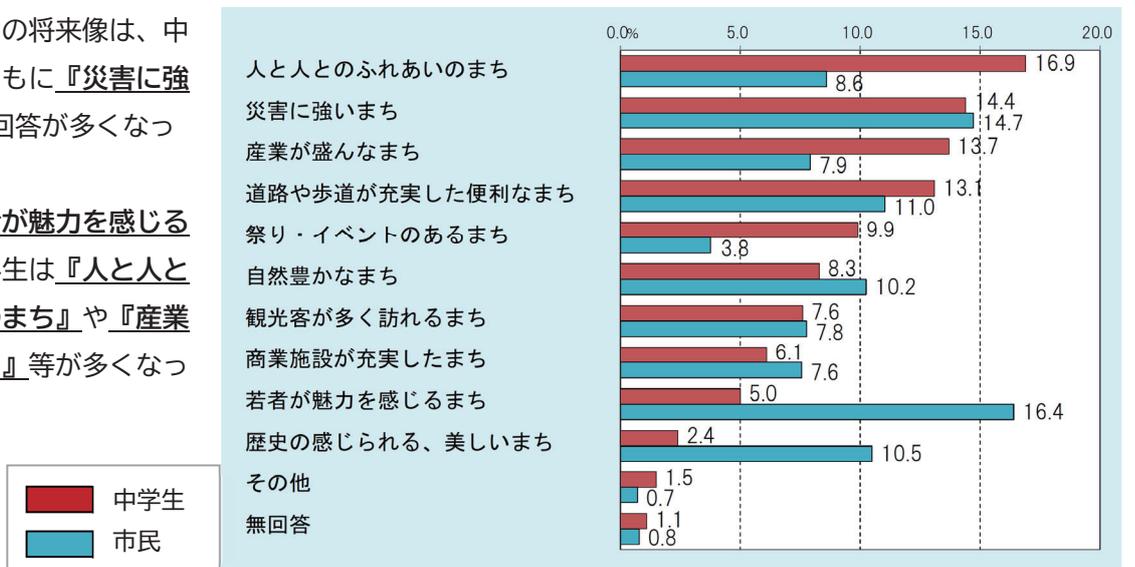
■ まちづくりで重要な事項



③ まちづくりの将来像

- 白杵市のまちの将来像は、中学生・市民ともに『災害に強いまち』の回答が多くなっています。
- 市民は『若者が魅力を感じるまち』、中学生は『人と人とのふれあいのまち』や『産業が盛んなまち』等が多くなっています。

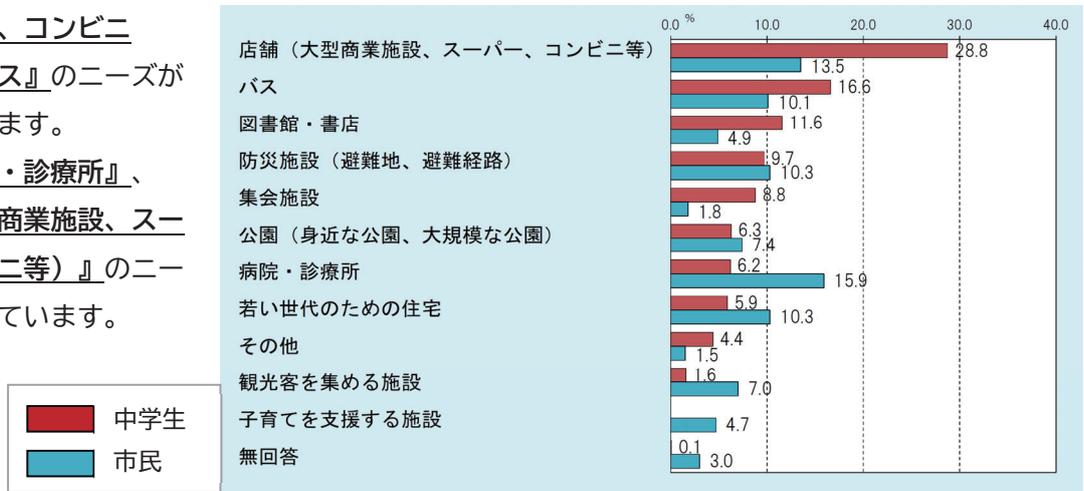
■ まちづくりの将来像



④ 充実してほしい施設

- 中学生は『店舗（大型商業施設、スーパー、コンビニ等）』、『バス』のニーズが高くなっています。
- 市民は『病院・診療所』、『店舗（大型商業施設、スーパー、コンビニ等）』のニーズが高くなっています。

■ 充実してほしい施設

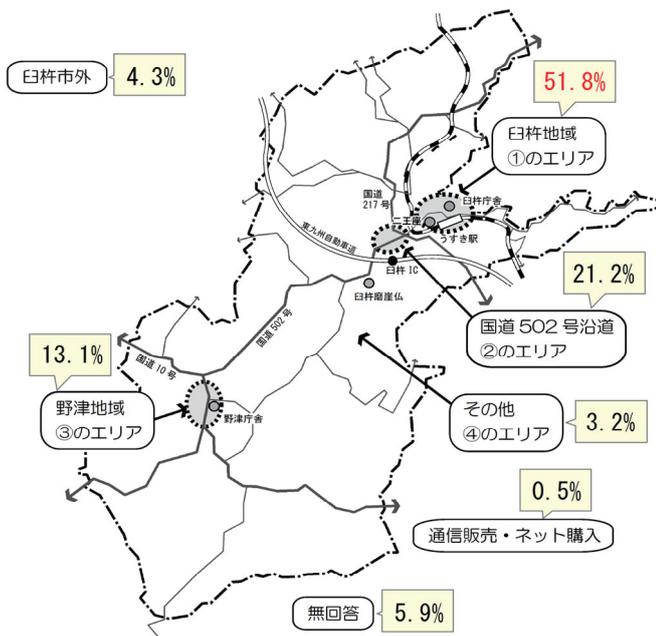


(2) 普段の生活と身近な地域について

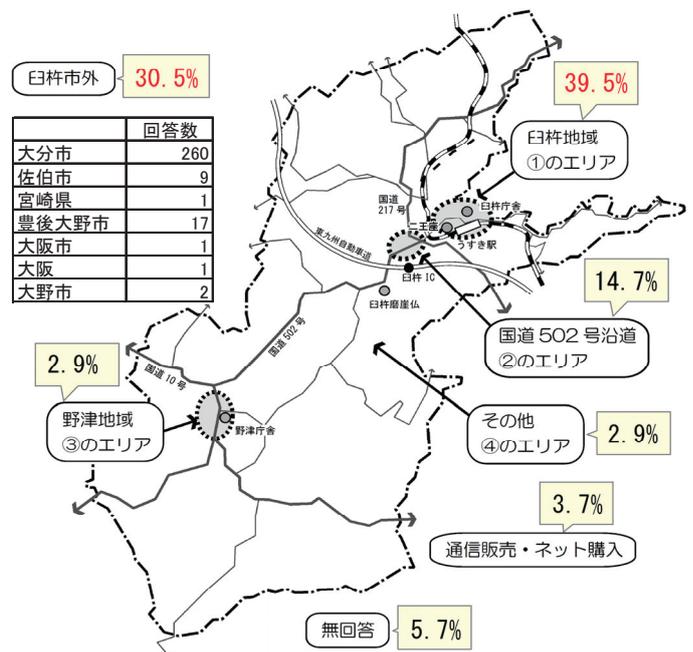
① 普段買物をする場所について

- 市民の食料品日用品雑貨品の買物の行先は『臼杵地域①のエリア』、食料品日用品雑貨品以外（服・家電等）の買物の行先は『臼杵地域①エリア』・『臼杵市外』（主に大分市）が多くなっています。

■食料品日用品雑貨品の買物の行先（市民）

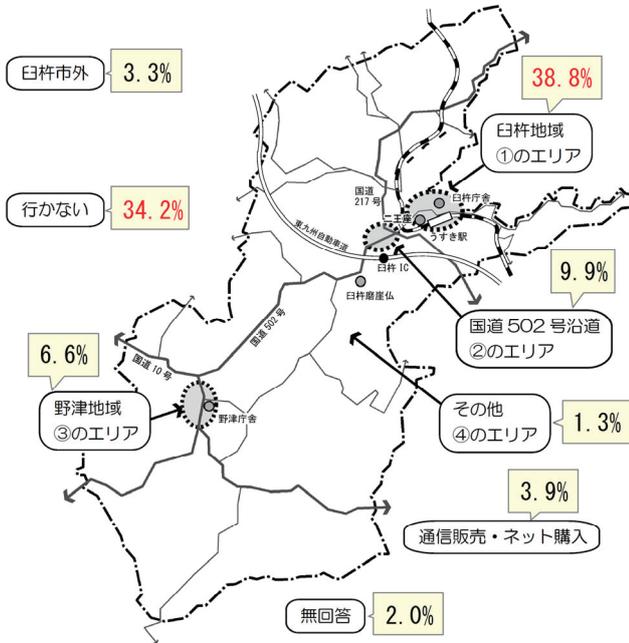


■食料品日用品雑貨品以外（服・家電等）の買物の行先（市民）

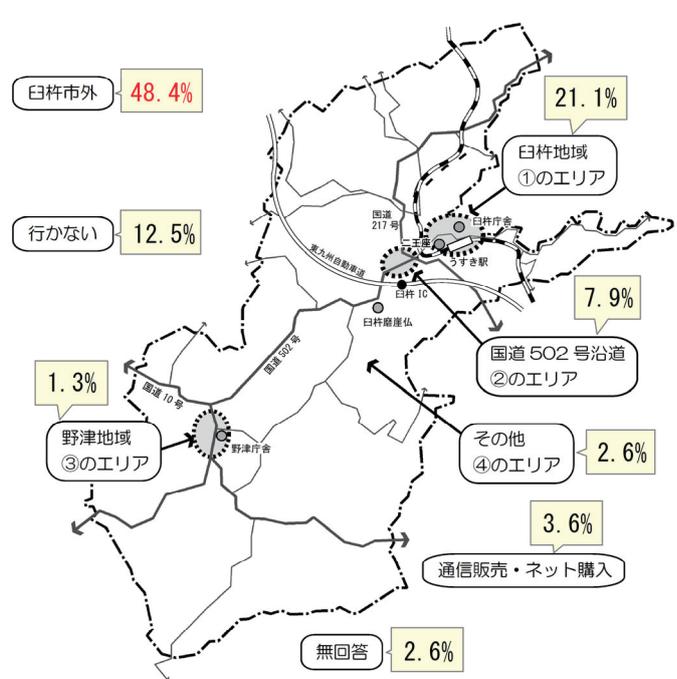


- 中学生の平日の買物の行先は、『臼杵地域①のエリア』や『行かない』が多くなっています。休日の買物の行先においては、『臼杵市外』が多くなっています。

■平日の買物の行先（中学生）



■休日の買物の行先（中学生）



② 身近な地域の満足度について

- 身近な地域の満足度は、『若い世代の定住』、『病院・福祉施設の利便性』、『遊び場所や憩いの場所』、『交通利便性の良さ』、『災害への安全性』の順にニーズが高くなっています。

■ 都市機能のニーズの満足度（平均点 1.26 以上はピンク表示）

順位	項目	全体	地域			
			臼杵北部	臼杵中部	臼杵南部	野津
1	若い世代の定住	1.53	1.55	1.47	1.49	1.66
2	病院・福祉施設の利便性	1.43	1.47	1.32	1.46	1.59
3	遊び場所や憩いの場所	1.39	1.31	1.39	1.43	1.46
4	交通利便性の良さ	1.38	1.50	1.28	1.37	1.49
5	災害への安全性	1.38	1.42	1.41	1.35	1.32
6	高齢者の暮らしやすさ	1.34	1.40	1.26	1.36	1.42
7	雨水や雑排水の排水	1.30	1.29	1.34	1.28	1.28
8	買物利便性の良さ	1.29	1.42	1.13	1.19	1.51
9	道路や歩道の歩きやすさ	1.26	1.26	1.31	1.23	1.21
10	子育て環境	1.20	1.20	1.15	1.17	1.31
11	河川のきれいさ	1.18	1.14	1.21	1.14	1.19
12	地域コミュニティの良さ	1.16	1.14	1.13	1.18	1.22
13	周囲の景観・街並み	1.08	1.05	1.09	1.03	1.09
14	周囲の自然環境	1.01	0.98	1.04	0.96	1.05
15	交通混雑の少なさ	1.00	0.95	1.14	0.93	0.87

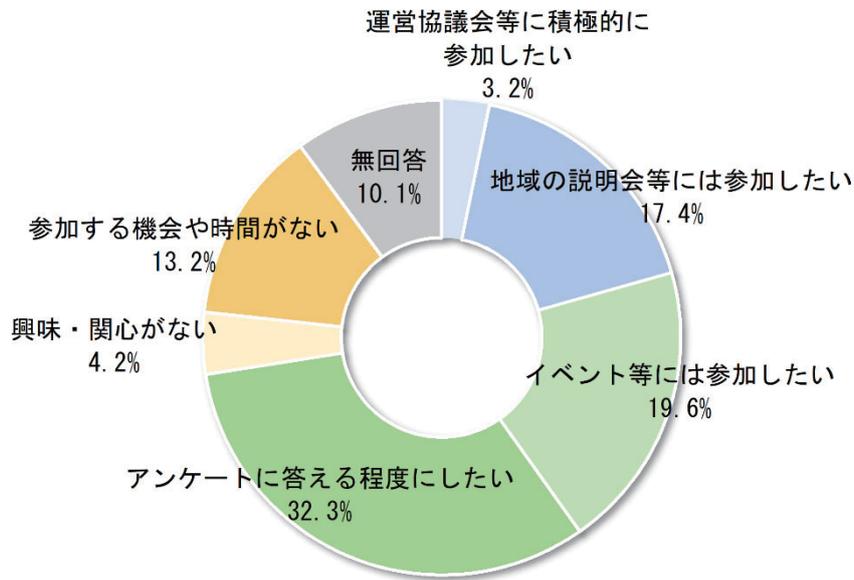
※本調査では、都市機能のニーズの満足度は 1.6 が最大値であり、1.6 に近づくほどニーズが高くなります。

(3) まちづくりへの参加意向について

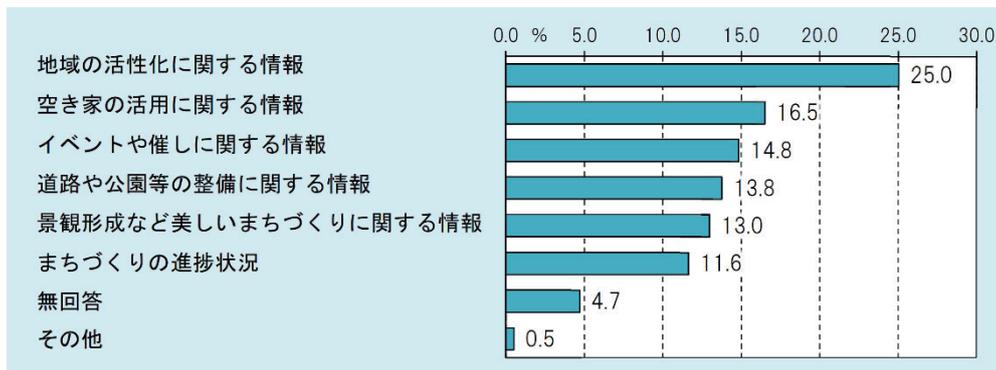
① まちづくりの参加方法と都市計画に関する発信してほしい情報

- 地域のまちづくりへの参加は、『アンケートに答える程度にしたい』、『イベント等には参加したい』、『地域の説明会等には参加したい』順に回答が多くなっています。
- 都市計画に関して発信してほしい情報は、『地域の活性化に関する情報』が最も多くなっています。

■ 地域のまちづくりへの参加



■ 都市計画に関して発信してほしい情報



3 臼杵市のまちづくりの整備課題のまとめ

(1) 臼杵市を取り巻く時代の潮流

急激な人口減少・少子高齢化の進行と地方都市のあり方

全国的に出生率の低下と平均寿命の伸びにより、人口減少・少子高齢化が進んでおり、地方都市では、大都市への人口流出により、さらに早いスピードで人口減少・少子高齢化が進みつつあります。そのため、空き家・空き地の発生、自動車を利用できない高齢者の増加、生産年齢人口の減少に伴う産業の働き手の不足等による地域コミュニティの衰退や活力の低下などが懸念されています。

また、こうした人口減少・少子高齢社会では、財政収入の減少が予想される一方で、医療・福祉等に係る財政支出が比重を増すため、健全な都市経営を持続するには、都市基盤の整備・維持管理コストを極力抑えることが不可欠となります。

そのため、これまでのような、自動車利用を前提とした郊外部開発を抑制し、将来の人口規模に見合った市街地の範囲で都市基盤の整備・維持管理を重点的に行うことが必要となります。

また、日常生活に必要となる様々な機能を徒歩生活圏内に集約化する都市のコンパクト化と交通ネットワークの構築による利便性の高いまちづくりなどが必要となります。

近年は、地球温暖化に伴う影響により環境負荷の少ない持続可能な都市づくりに向けた取組みが必要となっています。農地や山林等についても、担い手の不足や高齢化により管理が不十分となり荒廃することが懸念されており、今後は生産面だけでなく、防災等の面からも、農地・山林をどのようにして維持管理していくかが課題となってきます。

自然災害の多発と大規模自然災害の予測

近年は、全国的に大規模地震による津波被害、局部的豪雨による水害や土砂災害等が発生するなど自然災害による被害が増加しており、これらに向けた災害への対応や、災害を想定した防災・減災対策が必要となっています。そのため、これまで建設された建築物や都市施設の老朽化対策や、ハザードマップ等に指定されている災害リスクに配慮したまちづくりも重要となっています。

また、災害リスクの周知、被災状況等の情報把握手段の多様化、早期避難を可能とするための避難場所・避難経路の確保など、ソフト面の災害対策の強化を図ることも重要となっています。

これらのハード面やソフト面の災害対応への意識を高めるとともに、自助・共助・公助の観点から被害を最小限に抑制していく必要があります。

(2) 臼杵市が直面するまちづくりの課題

快適

1 住環境の魅力を向上させる必要性

本市では、人口減少・少子高齢化が進行しています。人口減少により、臼杵市内の居住地では空き家、空き地等の低・未利用地が増加しており、特に臼杵市街地周辺においては「都市のスポンジ化」が発生しています。

人口の流出について特に若い世代の市外流出は、大学への進学や就職による影響が主な原因と考えられます。また、高齢化の進行に伴い、病院・福祉施設や公共交通の利便性に関する市民のニーズが高くなっており、医療施設や公共交通の充実を図るとともに、公共施設等におけるバリアフリーやユニバーサルデザインにも配慮する必要があります。

住環境をより良いものとするためには、幹線道路、JR 臼杵駅、臼杵港新埠頭、臼杵インターチェンジ等の主要な交通網を活かしつつ、適切に都市機能（医療福祉、商業業務、行政サービス等）や居住等をコンパクトに配置し、定住・移住したくなる魅力の高い住環境の形成や地域コミュニティの維持が必要です。

安全

2 自然災害に対応し、都市の安全性を向上させる必要性

城下町や漁村集落などに見られる密集市街地は、歴史的な景観を残す反面、地震・火災等に対して脆弱であるという課題を持っています。臼杵市内には、水害や土砂災害の危険性の高いエリア、道路寸断時には周囲から孤立してしまう山村部、半島部などもあり、災害危険性の軽減を図るハード・ソフトの両面からの取り組みが必要となっています。

また、近年においては、自然災害が頻発して発生していることや南海トラフ・中央構造線断層帯による地震・津波被害が想定されています。水害への対策や災害時における的確な情報提供も必要とされており、過去に発生した災害の教訓を活かしつつ、住民・事業者・行政等が連携し、防災・減災対策を講じる必要があります。

便利

3 人々の移動や快適性を向上させる必要性

道路に関しては、東九州自動車道の四車線化を見据えつつ、臼杵港から臼杵インターチェンジ間の道路の交通渋滞対策、臼杵港新埠頭の整備に伴う旅客・物流に対する交通処理方法の検討など道路ネットワークの改善が必要です。

公共交通に関しては、公共交通機関の廃止・減便、利用者低迷の状況や市内外へのアクセス性が不便といった課題があることから、鉄道・路線バス・コミュニティバス等の多様な交通手段の確保とサービスの充実により利便性向上と利用者増加を図る必要があります。

また、臼杵港新埠頭では公共交通の充実による観光地や市街地との連携強化を図り、相互に賑わいを創出させることが必要です。

公園に関しては、県史跡臼杵城跡を活かした臼杵公園、国宝臼杵摩崖仏を活かした臼杵石仏公園、スポーツを楽しむことができる臼杵市総合公園や吉四六ランド等の大規模な公園の整備・機能拡充が進められています。これらの臼杵市内にある都市公園の既存ストックを活用するため、身近な都市公園の機能充実及び利用者増加に努めることが必要です。

活力

4 臼杵の良さを再発見し、活用する必要性

城下町の街なみ、文化財、田園地帯の風景、海・山・川といった豊かな自然環境は、本市が大切に守り残してきたものであり、将来にわたって失ってはならないものです。住民が本市に感じる愛着や誇り、そして来訪者が感じる臼杵の魅力も、こうした「ふるさと」の街なみや景観であり、個性を活かしながら、「臼杵らしさ」とは何かを再発見し、それらをさらに伸ばすことが必要となります。さらに、臼杵市の観光資源・景観資源・地場産業・地域産品等を保全・活用するとともに、市民や来訪者が交流し集う場として拠点を形成するなど、様々な観光への取組みを進め、再発見した「臼杵らしさ」を活かし、地域の魅力向上を図る必要があります。

商業に関しては、街なかの商店街と郊外店舗の両者が共存し、それぞれの特徴や長所を活かせるような土地利用、施設整備を展開する必要があります。工業に関しては、造船業・醸造業等の「臼杵らしさ」のある産業の発展、さらなる就業の場の確保、新たな企業誘致に向けた取組みが必要です。農林漁業に関しては、後継者確保や経営健全化に向けて生産者と行政が一体となって積極的に取り組んでおり、今後はより効率的に生産活動ができ、さらに農林漁業生産者が快適に生活できる環境整備が必要となります。

参加

5 本格的な住民参加によるまちづくりを展開する必要性

本市の歴史的景観や文化財を活用したまちづくりや野津地域の農業を柱としたまちづくりなどは、住民が地域のことを真剣に考え、自ら積極的に取り組むことによってこれまで培われてきたものです。

また、行政が主体となった計画策定や事業実施においても住民参画が本格的に根付き始め、本市のまちづくりに対して熱意と意欲を持ち、さらに具体的な行動を起こす住民、団体の数もますます増加しつつあります。このような住民参加型のまちづくりや地域運営については、これまでも様々な団体や組織が活動してきた実績があり、今後はこうしたノウハウ等を活かしながら、一般的な住宅地・集落で行われる地域の行事等のまちづくりにも広く展開していくことが必要となっています。

